

30 JUL 2001



第14号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

JAAGA 創立5周年

日米友好のかけはし

- 着実に拡充するJAAGAの活動
- 期待が広がるJAAGAの役割
- 軸足固め更なる前進をめざす

高い奉仕の精神がささえ

—— 創立5周年を記念して ——



President, JAAGA, Gen (Ret.)
Ishizuka

会長 石 塚 勲

日米エアフォース友好協会 (JAAGA) が創立5周年を迎えた。即ち、日米同盟が冷戦終焉後において

も、我が国の平和と地域の安定のために重要な役割を果たし続けるとの確信と、同盟の維持・強化に自らの努力が必要であるとの強い認識を共有した“空の仲間達”が、明確な目的の下に結集してから早や5年が経過した。

1996年7月5日の設立総会において、初代会長の大村元航空幕僚長は、「空を守り、空に生きると

いう共通の場を活用して、日米両空軍のより一層の友好親善、相互理解、意志疎通を考え、現役の航空自衛隊員を側面から援助することを通じて、日米の更なる理解、友好に寄与する」と協会設立の主旨を述べ、会員に対して奉仕の精神に徹するよう呼び掛けられた。

創立当初から開始された活動は、在日米軍基地を訪問しての状況把握と将兵の激励、日米共同訓練参加隊員の激励、賛助会員による日米空軍基地の研修及び広報と会勢の拡大であった。その後5年間の内容充実が目覚しく、前記の活動に加えて講演会、日米隊員の表彰、航空自衛隊基地に勤務する米空軍幹部の活動支援、日米空軍下士官の相互交流支援、正会員の米軍基地研修及び日米ゴルフ大会が定期的実施されている。また在日米空軍と協力して、我が国の大学院生に米空軍の考え方や状況を実地に研修する機会を提供する活動も成果を上げつつある。「だより」も内容を充実しながら既に14号を数え、三沢と沖縄には小規模ながら支部が設立された。

日米両エアフォースの紐帯を強化し、相互の信頼を深めるこうした活動は、理事として業務を担当している正会員諸君の献身的なボランティア精神と、全ての正会員及び賛助会員の物心両面の支援に支えられ、日米両エアフォースの積極的な協力を戴いて着実に成果を上げ、各方面から高い評価を得るに至っている。誠に有り難く感謝に堪えないところである。

一般に平和時の同盟関係は、相互に緊張感が不足しがちであると共に、共通の敵が存在しないためにパーセプション・ギャップが生じやすく、維持・強化が難しいと言われている。特に現代はグローバリゼーションの時代であり、経済のみならず国家運営の万般にわたって世界の各国と相互依存の関係で結ばれているため、国益の調整は複雑であり、問題及び局面によっては日米関係にも当然多くの紆余曲折が予想される。

しかしながら、日米同盟は、我が国安全保障の柱であり、アジア太平洋地域の安定基盤としての国際

公共財であり、我が国が国際社会において国益を増進し得るための基本要件であって、防衛戦略研究会議報告(13.5.23)にあるとおり、日本の立場からは、日米安保に代わる現実的な選択肢はないのである。

6月22日ワシントンで行われた日米防衛首脳会談では、中谷長官からラムズフェルド国防長官に対して積極的な戦略対話の具体策が提案された。また6月30日には小泉首相とブッシュ大統領との初の首脳会談で日米同盟をより強化、発展させていくための基盤が整ったといえる。今後当面重要なことは、パーセプション・ギャップを生じさせないための緊密な対話と、眼に見える現実に即した日米防衛関係の進展であろう。

「日米同盟」には、法的、条約的な概念を越えた友情による関係—或いは志を同じくする者間の協力—の意味が込められているように見える(防衛戦略研究会議報告)。「空の仲間達」は、我が国民レベルでのパーセプション・ギャップを少なくとも縮小させることができるし、非公式チャンネルで日米の情勢判断及び航空戦略の議論ができる。そして在日米空軍将校が、したがって米国民が我が国民を信頼できる同盟国の国民であると認識するための各種活動ができる。JAAGAは、日米同盟を維持・強化するための有用なツールなのである。

JAAGAは、創立5周年を機に「JAAGAの目指すべき方向について」再検討を行い、また正会員にアンケート調査を実施して具体的な活動を計画する上での知恵を集めた。その中の一部は既に13年度の事業計画に反映されているが、JAAGAとしては時宜に適した最も効果的な事業に力と貴重な資源を投入して行きたいと考えている。

今後我が国にとって一層其の重要性が増すと考えられる「日米同盟」を支えるため、JAAGAの活動を引き続きご支援下さるよう、そして会勢の拡大にご協力下さるよう心からお願い申し上げます次第であります。(以上)

創立5周年記念行事

—— 記念講演・祝賀会を盛大に実施 ——

平成7年7月5日に創立されたJAAGAは、歴代会長、理事、会員諸氏等の献身的な努力と支援により、航空自衛隊と在日米空軍の相互理解と友好親善はもとより、各種の企画を通して、わが国の安全保障の確立に寄与してきたところでありましたが、5周年を満了した本年7月6日、防衛庁長官を初めとする国会議員、外務省・防衛庁・航空自衛隊・在日米空軍の要人、その他の関係来賓多数をお招きし、約100名のJAAGA会員参加のもと、グラントヒル市谷において盛大にJAAGA創立5周年記念行事を実施しました。

5周年記念行事は、記念講演と祝賀会の2つに区分され、記念講演は、招待者、米空軍関係者及びJAAGA会員の約180名が参集して、16:00から実施されました。

当初、駐日米国大使館首席公使、リチャード・クリステンソン氏の「日米同盟は不可欠である。」と題しての講演が予定されていましたが、公使が急用のため来場出来ず、代って在日米軍司令官・ヘスター中將が、公使の原稿を基に講演を実施しました。突然の依頼にもかかわらず、ヘスター中將は少しも動ずることなく、持ち前のユーモアと独特のスピーチ技術を駆使して、見事に講演を成し遂げ、我々を魅了しました。

引き続き行われた祝賀会には、中谷元・防衛庁長官をはじめ歴代長官等関係国会議員、藤崎一郎外務省北米局長ご夫人等外務省代表、佐藤謙防衛事務次官等内部部局代表、竹河内捷次統合幕僚会議議長ご夫妻、遠竹郁夫航空幕僚長ご夫妻、防衛庁付属各機関、航空幕僚監部、航空自衛隊各部隊の代表等、また米国側からはNORAD（北米防空司令所）司令官ラルフ・エバハート空軍大將ご夫妻、在日米軍

司令官ヘスター中將ご夫妻等米空軍関係者、その他、山本誠 JANAF A（日米ネービー友好協会）会長ならびに鈴木昭雄つばさ会々長等々約110名の招待者や米軍関係者のご来臨を頂き、総数232名の盛大な祝賀会となりました。特に、JAAGA発足当時在日米軍司令官であったラルフ・エバハート大將ご夫妻は、本祝賀会の為にわざわざ米本国から来日され、記念行事に華を添えてくれました。

祝賀会は、米空軍横田基地のコーラスグループ「パシフィック・トレンド」による日米両国歌の素晴らしいハーモニー合唱に始まり、石塚勲JAAGA会長挨拶のあと、中谷元防衛庁長官、遠竹郁夫航空幕僚長、ヘスター在日米軍司令官、そしてエバハートNORAD司令官と、それぞれ個性的な祝辞が述べられ、山本誠 JANAF A 会長の音頭で乾杯が行われました。

その後の懇親の場では、中谷防衛庁長官が持ち前の気さくさで、日米の参加者と親しく懇談されたり、旧知の日米関係者の間では思い出話の花が咲くなど、和やかな雰囲気の中にも活気あるムードが会場を満ちました。また、米空軍横田基地のコーラスグループの合唱や航空自衛隊「入間太鼓」も披露され、日米友好の気運を一層高めてくれました。

19:00、鈴木昭雄前JAAGA会長の乾杯で大成功裏のうちに閉会となりましたが、気分が高揚し名残惜しさもあって会場を去りがたい参加者もあり、暫くは余韻さめやらぬ状況となりました。

本記念行事を通じて、企画・準備・実行にあたった理事等は、改めてJAAGAの意義を深く理解し、その役割に自信を深めるとともに、次の5年に向けて大いに結束を強めるところとなりました。



駐日米国大使館首席公使

リチャード・クリステンソン

(代理：在日米軍司令官 ヘスター中将)

駐日米国大使館公使リチャード・クリステンソン氏が講演する予定でありましたが、同公使が急遽公務で来演できない状況が発生したため、在日米軍司令官兼第5空軍司令官のヘスター中将が同公使講演原稿を基に、代わって講演されたものである。

皆様こんにちは、石塚会長、JAAGA会員の皆様、そしてご臨席の皆様、5周年おめでとうございます。

いろいろありまして、急遽代理として首席公使の原稿を読むことになりましたが、本日はJAAGAと米軍の関係のみならず、日米同盟関係の重要性についてお話をさせていただきたいと思います。

先ず、本日首席公使でありますディック・クリステンソンの代理としてここにいますことを光栄に思います。私とディックは、10年ほど前、私が嘉手納基地の副司令でいた時に彼は総領事館で勤務していたという間柄でも

ございます。

今週は、日本中で各種のお祝い事がありました。アメリカ大使館では大使館公邸におきましてアメリカの独立記念日の式典が催されましたし、ベーカー駐日大使が奥様と共に日本に到着されたことは米国人にとって嬉しいことでした。日本側におきましても、まず本日のJAAGAの5周年記念はもちろんではございますが、つい先日航空自衛隊が47回目のお誕生日を迎えられたと聞いております。1954年に発足した航空自衛隊ですけれども、私の個人的な見地から申し上げましても、大変すばらしい米軍との協力関係を築いて来ら

れたと思っています。

J A A G Aのこれまでの活動について、少し触れたいと思います。J A A G Aの活動は、航空自衛隊と米空軍の各部隊等との交流等におきまして友好関係を築く上で大変すばらしい貢献をしてこられました。これまでの行動は、先日ブッシュ大統領と小泉首相が共同声明で発表した安全と繁栄のためのパートナーシップというもののの中に全て包括されていると考えます。私たちはこのアメリカと日本の人々の間のすばらしい交流を大変歓迎いたします。両国の目から見まして、小泉首相とブッシュ大統領の会談というのは大成功で効果のあったものであったと思っています。そして今回、アメリカからすばらしい政治家であります新しい駐日大使を迎える事が出来ましてアメリカ大使館の中では、これから新しい日米の関係が築かれて行く。また始まるという風な雰囲気が高まってきております。

ブッシュ大統領が、6月26日ホワイトハウスにおいて行われたベーカー大使の宣誓式において言った言葉をここで引用させていただきます。「私たちは最もすばらしい者達を日本に送り込みます。何故ならば米国は日本との関係以上に重要な関係が世界では見られないと信じているからです。この私たちの日米同盟関係というのは重要な戦略的見地に立っておりまして、これには経済的なものももちろん含まれており、そこに根付いております。この同盟関係というのはアジアにおける平和と繁栄の柱ともなり得ます。そしてこの日米パートナーシップは、今日においては世界的規模で起きる問題に対しても対処するためのすばらしい同盟となっております。」

日米の同盟関係は、日米安全保障条約に基

づくものであります。この条約はそんなに沢山の文言が含まれている訳ではないのですが、とても簡潔にしかしながら重要なことをうたっております。その中から二つの点を挙げたいと思います。先ず第一に、日米どちらかが日本国の中で武力攻撃された場合において、日米双方ともにその危険に対して行動を起こします。第二に日本の安全と極東における平和と安全を維持していくために米国は、日本の土地や施設を駐留のために使えます。

日本に駐留している米軍は、先ほども申しましたようにこの地域における平和の維持と経済の繁栄と安定を目的としてここに展開しております。また、脅威に晒された場合に対応するために駐留しております。もしこの日米関係が、それだけのための同盟として存在しているのであれば、すでに経済的な効果等を達成したことになります。しかし、現実には、日米関係がそれ以上であることを示しております。日米同盟は、アジア太平洋地域における日米のダイナミックな外交の展開を支えております。更に太平洋アジア地域だけではなく、世界中においてもその影響力を及ぼしています。

日米の同盟関係または協力関係がどれだけ重要なのかという例を挙げさせていただきますけれども、例えば日米協力関係の中で日本周辺の、例えば中台問題に関してもこれまで協力関係において、いろいろな影響力を及ぼしてきました。また、アメリカ、韓国、日本の三国間も、協議は北朝鮮との交渉にも効果を発揮してきました。また、東チモールの問題、東南アジアで起きる様々な問題、また国連の安全保障理事会について、更に国連の予算等についても、これまで日本とアメリカの協力

関係が有効な影響力を及ぼしてきました。

皆様は、ミサイル防衛について大変興味があると思われませんが、今夜懇親会の席に宇宙軍のエバハート司令官が参ります。その時にエバハート司令官の方から皆様のミサイル防衛等についての質問にお答えできるかと思えますので、遠慮なく質問を投げかけてみてください。

ここで私たちは、自分自身に対して質問をしなければならないと思います。それは今まで話してきました日米同盟のすばらしさについてであります。私たちはこの重要な課題と、これまでどれ程真剣に向き合ってきたのでしょうか。ソ連が崩壊してから10年が経ちました。また冷戦終結後の様々な地域における安全保障の状態が変わって参りました。

私たちは日米両国のトップにいるリーダーがこの問題について日米安全同盟の問題について大変な興味を示している事を幸運に思わなければならないと思います。これは1996年にクリントン大統領と当時の橋本首相が日米共同宣言として発表した中にありますけれども、この中に私たちの日米同盟関係がこれまで以上に強固なものになっていかなければならないという風な文言が含まれておりました。二人は日本における在日米軍の駐留が大変重要であることを再認識しました。また駐留し続けることにおける様々な協力の方法についても話し合いました。この話し合われた内容を実施するに当たって、これから新しい世紀に向かって様々な安全保障に対する課題が出てくると思えますけれども、私たちはそれに向けて大きな前進をしなければならないと思います。

6月30日のブッシュ大統領と小泉首相の会

談におきましても、これまで同様の、また更なる安全保障関係における進展のある内容の発表がありました。お二人は、包括的なリストを作成し、これにはこれまで以上にどのような協力方法で対処していけばいいのかを示しました。これには戦略的対話の必要性、重要性等が示されており、またアジア太平洋地域それからその他の地域における対話の重要性が盛り込まれております。そして私たちの大統領、皆様方の首相が様々な官僚レベルで、日米防衛協力のためのガイドライン実施を中心に、安全保障分野での協力を推進させるための協議を活発化させることを決めました。

更にこの両リーダーの会談がこの地域の安全の環境に重大な影響を及ぼし、また我々の軍の態勢でありますとか、安全における戦略性、お互いの相互関係における役割、任務等、また有事の際のそれぞれの任務と役割等を明確にしました。また、平和維持活動における協力についても話し合いました。大統領と首相は米軍がこちらで前方展開しておりますことがどれほど重要であるかということ、またそれがどれだけこの周辺地域の安定に重要であるかと言うことを確認しながらも基地問題を重要な位置付けにしております。それには沖縄県民の負担を軽減し、同盟を強化するSACO最終報告の推奨事項を継続して実行していくことも含みます。また、ブッシュ大統領は在日米軍への接受国支援(HNS)にも大変感謝をしており、これが米軍の施設等だけでなく、私たち軍人及びその家族にどれほどすばらしいものであるかということも話し合っていました。

最後に、大統領と小泉首相は弾道ミサイルや大量破壊兵器の拡散の脅威について話し合

い、それについての認識を新たに確認しました。私たちに両方のリーダーは、これらの脅威に対する包括的な戦略的方策が必要であることをお互いに強調し、それには新しい防衛システム、また外交的イニシアティブが必要であるという認識を双方で持ち、それが兵器削減に繋がるという風に認識しております。両リーダーは、ミサイル防衛と非拡散のための努力をこれまで以上にやっていかなければならないということをお互いに確認を致しました。また、弾道ミサイル防衛のテクノロジーの開発及びそれに対する相互的な協力の重要性を確認しました。

ここで、両首脳が話しあった皆様に直接的に関係のある部分に触れ、お話をしたいと思います。日米同盟は二つの重要な要素で成り立っています。健全な抑止力と即応能力です。先ず、先ほど申しました私たちの日米相互協力関係におきましては、その根幹となるものは、両国の防衛政策です。軍事力を使うという事は最終的な手段であり、またそれが軍事力を使うという事に十分な準備が出来ているという段階においてのみ使います。そして即応能力を整えることは二重の重要性を含みます。これは私たちの敵になり得るものに対して、それを思い止まらせるようにすること、またそれが今後起きないように効果的に抑止するということになるかと思われまます。

そして、ここであえて申し上げるまでもなく、その準備態勢を整えておくためには、訓練が不可欠であることは皆様ご存知かと思えます。訓練の重要性がどれほど大きいという事も皆様ご存知であるかと思えます。これまで皆様が自衛隊で過ごされてきた年数はそのほとんどが、訓練においてしかも現実的な訓練において、その時間を費やしてきたこと

は想像に難くありません。そして、日本の安全、世界の平和、それからこの地域の安全を維持し、貢献していくためには、私たち両国の自衛隊及び軍はこれまで以上に訓練をし、私たちの技術を常に最高のレベルに保っていなければなりません。それをしてのみ、私たちはいざという時に最高の成果を発揮できるのです。また私たちの訓練が地元の方々にとって大変迷惑であるということも認識いたしております。そして私たちはそれを最小限に食い止めるために、例えば低空飛行をなるべく控えたり、夜間の飛行を控えること、また時間の制限をすること、学校の試験の期間には飛行をしないこと等をこれまでもやってきましたし、これからもやっていきたいと思っています。

話の最初に戻りますが、日米の同盟関係が米国とアジア太平洋地域におけるその基礎となるということだけでなく、ダイナミックなアメリカと日本の関係がこの地域における外交上の跳び台になると思っており、またそれが、この地域だけでなくひいては世界に対する大きな影響力になっていくことでしょう。また、J A A G Aのように積極的に日米の関係をより良くして行こうという活動があってこそ、私たちのこの日米同盟関係が更に発展していくものと思われまます。本日はクリステンソン首席公使の代理としてここにおりますけれども、私はJ A A G Aのイベントにはどのような時でも参加するのを大変楽しみとしておりますし、本日は5周年記念ということで特別なイベントでありますので、大変光栄に思います。そして最後に日米同盟に対するJ A A G Aの強力な支援に対して感謝を申し上げ、終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。



防衛庁長官祝辞

ただ今紹介頂いた防衛庁長官の中谷元です。

本日は「日米エアフォース友好協会」の創立5周年の記念の会にお招きいただきありがとうございます。21世紀が幕を開けた歴史的な年に創立5周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

先程大変美しいコーラスで両国国歌が演奏されましたが、日米関係はコーラスの美しさのように大変良い関係にあります。本日ははるばる米国からこの式典に参加される元在日米軍司令官エバハート大将のお名前も、心と心の永遠の絆を表しており、両国の関係を良く表現していると思います。

J A A G AはP K O部隊の出発にあたっての激励や各種の講演会開催と言った様々な活動を通じて航空自衛隊と米空軍との強固な絆の育成にご尽力いただいております。心からの感謝の意を表したいと思います。

さて本年は日米安保条約が署名されてから50年目にあたります。日米関係は我が国の経済的発展と平和の維持に重要な役割を果たしてきており、アジア・太平洋の平和と安定に大きく寄与しています。

先般、アメリカを訪問してラムズフェルド国防長官と防衛首脳会談を行って参りました。ラムズフェ

ルド長官は現在68歳ですが、私と同じ43歳の時に初めて国防長官に就任され、今回2回目の国防長官であります。長官には私と同じ年の娘さんがいらっしゃるということで、親子のような深い信頼関係を築くことが出来たと思います。



会談では、米国の国防見直しやミサイル防衛の話をしました。我々はほぼ同じ考えを共有し、強固な日米関係は今後とも変わらないと言うことを再認識できました。会談を成功裏に終えることが出来たのはJ A A G Aの皆様が日頃から日米関係のためにご尽力いただいているお陰だと感謝しております。ここに改めて、石塚会長をはじめとする日米エアフォース友好協会の皆様の長年にわたる真摯なご努力に敬意を表します。

以上、簡単ではありますが、今後とも一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げますと共に日米エアフォース友好協会の更なる発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念して私のご挨拶とさせていただきます。

空 幕 長 祝 辞

石塚会長、中谷長官、はるばる米国本土からお見えになった、エバハート大将、ヘスター中將、そして本日まで出席の皆さん今晚は。

この度は、日米エアフォース友好協会にお招き頂き大変嬉しく思っております。又、この度創立5周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

当協会は、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的に、平成8年(1996年)7月5日、大村元空幕長を初代会長として発足されました。

その時私は空幕防衛部長でしたが、東京プリンスホテルで、設立記念の祝賀会が盛大に行われ、当時の大村会長、臼井防衛庁長官、村木空幕長、そして本日まで出席のエバハート空軍司令官が法被姿で元気の良い鏡割りをされたのを昨日のように覚えております。

以来、様々な事業を意欲的に推進されてこられまして、先日も日米共同訓練「コープノース・ゲーム01」のメンバー出発に当たり心強い激励を頂き、お

かけを持ちまして一同無事に且つ多大の成果を挙げて帰国致しました。

我が航空自衛隊は、丁度3年後に創立50周年を迎えます。私は中谷長官の御指導の下、日米安保体制の信頼性をより一層高めていくため、益々重要となる日米間の防衛協力の態勢構築に全力を傾注しております。

その架け橋ともなるべき、石塚会長率いる当友好協会の果たしている役割は大変大きな価値のあるものと確信しております。

また、会員の数も年を追うごとに拡大しつつあり、大変喜ばしい事だと思っております。

最後に、当友好協会の今後更なるご発展と、日米の友好の絆が益々深められますよう祈念申し上げてお祝いと致します。



Chief of Staff, JASDF,
Gen. Tohtake

在日米軍司令官ヘスター中將祝辞

久間元防衛庁長官、中谷防衛庁長官、竹河内統合幕僚会議議長、遠竹航空幕僚長およびご来賓の皆様、こんばんは。本日はお招きいただき大変光栄であり、心からお礼申し上げます。

今週は日本、アメリカ両国にとってお祝いの一週間であります。まず今週はじめには航空自衛隊が47周年を迎え、アメリカでは昨日独立記念日を祝いました。そして本日は日米同盟関係にとっても重要なJAAGA設立5周年をお祝いするためにこのように盛大に集いました。JAAGAは私にとって特別な存在であり、また米空軍と航空自衛隊にとっても大事な存在であります。

5年前、林元空将補と私は共に三沢基地の司令官でありました。以来、同じ価値観と尊敬の念を互いに抱いております。ここで私たち以外にも同じ価値観と尊敬の念を抱いている者がいる一例を紹介したいと思います。マイケル・ライアン米空軍参謀総長からのメッセージを預かっておりますので、読ませていただきます。(次頁に掲載)



Lt. Gen. Hester

米空軍参謀総長ライアン大将からのメッセージ

J A A G Aの皆さんが2001年6月6日、東京において、創設5周年を記念して祝賀行事を実施されると伺い、J A A G Aがこれまでに成し遂げてこられた数々の功績に対して、心からおめでとうと申し上げます。

航空自衛隊が、1954年に創設されて以来培ってきた日米両空軍の緊密な関係は、日米相互安全保障条約の核心をなすものといえることができます。それは、両空軍の緊密な関係と精強な存在が、北東アジアにおける平和と安全を長期間にわたって維持してきたことの本当の理由である、と言えるからです。また折しも、航空自衛隊は同じ時期に創設47周年を迎えられますが、航空自衛隊創設の意義に思いを致し、両空軍が更に緊密さを増して、共通の価値を守るために果たすべき夫々の責任に対する理解を一層深めることが出来るよう祈念致します。

妻のジェーンと私は、このような重要な日に皆さんと共にそこに居合わせられないことを残念に思います。偉大な両国の空軍軍人のために献身的な活動をされているJ A A G Aの会長以下会員の皆さんに対し、心からの感謝と敬意を表します。

皆さんの益々のご発展を祈念致します。オメデトウゴザイマス、ドウモアリガトウゴザイマス。

エバハート大将祝辞

北米防空司令所司令官兼
米国宇宙軍司令官兼
米空軍宇宙軍司令官

日本に再び来ることができ、このように多くの友人に会うことが出来たことを大変嬉しく思います。ヘスター中將からJ A A G A 5周年記念行事の連絡を受け、家内と二人でこの日を大変楽しみにしておりました。今夜のこのレセプションも、予期していた以上の盛会で、参加しておられる皆さんの顔を見ていると、かつて在日米軍司令官として勤務していた当時のことが臉に浮かんできます。今日、こうしてここに皆さんと一緒に居られることを大変名誉に思います。5年前J A A G Aを立ち上げる時の最初の1年間、皆様のために少しでもお力になれたことを大変嬉しく思います。しかし過去を振り返ること

は大事ですが、将来をしっかりと見据えることはもっと大事です。J A A G Aが米空軍と航空自衛隊の架け橋として貢献されるとともに、米空軍と航空自衛隊が共にこれまでは“Air Power”として、しかしこれからは“Space Power”として実力を養い、発展していくことを切望すると共にJ A A G Aがそのための力添えができるよう祈念致します。



Gen. Eberhart

平成13年度(第6回)年次総会開催

5周年を機に新たな飛躍をめざして事業計画、予算などを採択



President, JAAGA,
Gen. (Ret) Ishizuka

平成13年4月20日(金)、JAAGAの平成13年度(第6回)年次総会がグランドヒル市ヶ谷で開催された。総会には、会員50名(委任状237名)が出席し、会則に則り総会

の成立が確認された。冒頭、12年度中に逝去された大室、川勝、新谷各氏のご冥福を祈って1分間の黙祷を行った。

審議に先立ち、石塚会長から「JAAGAは本年度で5周年を迎える。この機に、JAAGAの進むべき方向の検討、アンケート調査などを行い、13年度の事業計画案の中にも一部その成果が組込まれている。(中略)次の5年に向けて効果的な活動を続けるべく、「見返りを求めない」姿勢を堅持しつつ、活動を継続したい」との挨拶があり、その後、規定により石塚会長が議長に就任し、審議が開始された。

議決事項等 第1号議案から第5号議案までが上程



Annual General Meeting

され、審議の結果、次のとおり議決・承認された。

第1号議案「平成12年度事業報告」及び第2号議案「平成12年度決算報告及び会計監査報告」が、それぞれ担当常務理事の説明の後、採決の結果、案のとおり承認された。次いで、第3号議案「平成13年度事業計画案」及び第4号議案「平成13年度

予算案」について担当常務理事から説明が行われ、13年度事業としては、「JAAGAの目指すべき方向について」(12.9.19第20回理事会承認)に基づく事業を積極的に推進することを方針とし、在日米空軍の存在意義の一層の啓蒙及び同隊員の士気の高揚に寄与すること、会勢の拡大を図ること並びに協会の活動について広く各層の理解を求め、を重視して事業を運営してゆくこととし、7月の5周年記念行事をはじめとする具体的事業及びそれを実行するための予算案が提示された。採決の結果、両案とも案のとおり議決された。

最後に、第5号議案「役員を選任」について村木理事長から説明があり、採決の結果、案のとおり議決された。これにより平成13年度のJAAGAは、石塚会長の下、理事及び常務理事の一部に新たなメンバーを加えて運営されることとなった。

懇親会 総会に引続き場所を移して懇親会が催された。懇親会は、会長挨拶に続き、遠来の宮下裕氏の乾杯の音頭で開宴し、途中、つばさ会々長鈴木昭雄氏のスピーチを交えながら、JAAGAの今後のあり方や会員相互の近況などに話が弾み、

参加者はそれぞれに和やかな一時を過ごした。最後に、新入会員の岡本智博氏の音頭で懇親会を閉宴した。



"Kanpai" by Gen
(Ret.) Miyashita



Reception

帝京大学生が米軍基地を訪問

研修・ディスカッション等で相互理解に多大の成果
JAAGAがスポンサー、充実発展させながら継続

常務理事 岡本智博



Teikyo University students' visit at Yokota AFB

去る6月20日、志方俊之帝京大学教授（元陸将、北方総監）が引率する、志方ゼミの学生23名が横田基地を訪問し、これを受け入れた米軍並びに参加した帝京大学学生、双方からこの企画を高く評価した所感が寄せられる等、多大の成果を挙げて終了した。

このプロジェクト実現への経緯を簡単に紹介した後、今回の研修内容等について随行所見を交えて報告します。

参加学生から寄せられた所感文の一部をご本人の了解を得て、要約し末尾に掲載しました。

1 はじめに

まずこのプロジェクトの発端は、昨年11月、JAAGA広報班が在日米軍並びに第5空軍広報班を訪問し、JAAGA設立の趣旨、組織、活動、予算等の説明をした上で、JAAGA広報として在日米（空）軍広報の活動に対してどのような協力支援が出来るか、ということテーマに話し合ったことから始まる。

この時だされた米側の意見は次のようなものであった。即ち、根底を成すテーマは、在日米軍の存在の意義を一人でも多くの日本国民に理解してもらうに

はどうすれば良いか、ということであり、なかでも在日米軍に対する既存の支持者層に働きかけるというよりも、無関心者層或いは反対者層に働きかけたいということ、そして更に、次の時代を背負っていく若い人達に働きかけたいということであった。具体的には、次のようなプロジェクトが提案された。

- ① 在日米軍司令官等の要人による、一般人を対象とした講演会の実施
- ② 在日米軍司令官等の要人による大学での講演会の実施
- ③ 大学生或いは反対派政治家等の基地招待及び見学・説明等
- ④ 在日米軍基地周辺対策についてのアイディアの提供或いは人脈の紹介

これに対してこちらから、①に対しては、「平和・安全保障研究所」等の安全保障関係の研究所或いは機関等が色々あるので、それらを紹介する、②については、米軍であれ軍人が大学に行って講演するのは、我が国では今なおタブー視されているところがあるので難しい、③の大学生の基地研修については、JAAGAとして企画の仲介をすることができ実現可能性が最も高いと思われる、④については、JAAGA会員の中に基地司令経験者等多数居るので助言できるのではないかと述べるとともに、持ち帰って理事会に諮り承認を得る旨回答した。その他、JAAGAの機関紙「だより」に米軍ページとして1～2ページを毎号提供するので、記事を書いて欲しい旨申し入れたところ、大変良い企画なので喜んで記事を提供するとの回答があった。

このような経緯のもと、大学生の基地研修については理事会で取り上げられ、本年度の事業として実施することが承認された。具体的な事業の推進に当たっては、石塚会長自ら趣意書をしたためられ、大学院生として研修中の現役空自幹部に働きかけるとともに、志方教授等旧知の方に申し入れて頂き、今回の初回の実現を見るに至ったものである。

2 研修の概要

0940 福生駅に集合完了した学生たちは、米軍提供のバスで、まず横田基地を一周して各施設を見学、その後在日米軍司令部のブリーフィングルームで副司令官ギャリー・キューイ少将の歓迎の辞、続いて「アウトリーチ・プログラム」のブリーフィングを受け、そして約2時間のQ&Aセッションを持った。質問は米国の対中・対北朝鮮・対ロシア脅威認識、米国のアジア・太平洋戦略、台湾問題、これに絡む集団的自衛権の問題、TMD、周辺事態法での日米協力等々、実に内容の濃いものとなり、ヒューイ少将そして志方教授の巧みなリードもあって、司令部の第1～5部長も加わっての討論会とも言えるような活気ある意見交換が実現した。

その興奮と熱気はそのまま昼食時にも持ち込まれ、気がついたときにはすでに午後2時を回り、急いで次のプログラムであるC-9 ナイチンゲールの研修に移行した。初めて見る米軍の救急医療体制の説明を受けた学生諸君は、軍隊の自己完結性が如何に徹底しているかに感銘を受けていた。そして司令部広報部長ミニック大佐はじめスタッフ・メンバーの終始変わらぬ篤いもてなしに心からの御礼と別れの言葉を告げ、胸いっぱい充実感とともに家路についていた。

3 随所所感

こうしたプログラムをJAAGAが企画し支援することは、「在日米軍としても極めて有難い」という副司令官の評価はもとより、JAAGAが日本の若い世代に「日米同盟」の真の姿を知ってもらう手助けをすることで、日米友好の増進にさらに深く寄与することにもなり、JAAGAそのものの存立意義をさらに高めるものであると強く確信した。

なお、このプログラムは他の大学等にも好評で、7月25日には御厨貴教授が引率される政策研究大学院大学の学生約20名が、9月下旬には上智大学学生約25名が横田基地を訪問することになっている。


~~~~~〔横田基地見学所見〕~~~~~

園 浦 雄 大

まず、スタッフの自己紹介を遮って議論を始められた副司令官の熱意にビックリしました。「北朝鮮が何を言っているかより何をしているか見るべき」「北朝鮮には何が抑止力になるかは難しい」「台湾には独立しないよう（急ぎすぎないよう）政治的に働きかけている」などの意見は正論で、反論の余地がなかった。

そして質問すると、まっすぐに答えが返ってきて、同時に質問も返ってくることに感激しました。このような対話方式は双方にとって、無形の大きな物を残したと思います。まず我々日本側にとって最大の驚愕事は、「米軍にとって最悪な事態とはなにか？」という質問に「それは「日米の友好関係が崩れることだ」と即答されたことでした。自分の予想の中にあった日米関係と米軍側の認識とはかなり違っており、平素からの意見交換が如何に必要であるか実感させられました。

米軍側にも一つ伝えることが出来たのは「集団的自衛権を行使すべく日本は改憲すべきと思うか」という志方教授の質問に対し、我々全員が一つの回答をしたことです。これは事前の打ち合わせもなく、政治的「やらせ」でもありません。突然の質問でしたが、はっきりと学生全員が「改憲、集団的自衛権を行使して米軍とともに行動すべき」と挙手をしたことです。米軍側から「んん？」とか「ふう〜む？」という表記しにくい反応があったことは良く覚えています。

「台湾有事の際にあなたが首相なら自衛隊を紛争処理のために派遣するか」という問いに対し、多数が積極策を支持したとき、「みなさんには国会の椅子に座っていただきたい」と司令がジョークをいわれた。

食事中に岡本空将のお話しをお聞きして、米国でのマスコミの防衛問題に対する報道の仕方、米国での教育訓練の現状について教えていただいたことも大いに参考になりました。書ききれないのですが、ヒューイー将軍も岡本空将も、将軍というのは大変聡明な方々だと実感しました。米軍は我々の方をどう思ったのか心配になりました。

心残りは沖縄の基地の重要性について聞きそびれたことで、これは私たちの大失敗でありました。副司令官が沖縄に勤務されていたことを知っていたので、残念でなりません。

樋 口 弘 武

今回の見学で、私は米国が同盟国日本を重視しており、さらに我が国を理解しようと努めていることを実感しました。日本の一介の学生達に、基地の副司令官が自ら会って下さって、ディスカッションをするということ自体に驚きました。いかに日本が同盟国とはいえ、わざわざ将軍が、忙しいなか時間を割いて下さるというのは、他の同盟国でもまず考えられないのではないのでしょうか。マスコミの取材ならそうもあろうが、たかが二十数名の学生相手なのですから。私はこうした米軍の誠意ある対応に恐縮してしまいました。

我々はこういう待遇を受けるのに本当にふさわしいのだろうかと自問いたしました。米軍は、この異



国の地で文化的な違いからくる問題や、我が国の政治状況からくる理不尽な問題に対しなんと忍耐強いのかと感じさせられました。とくに、ヒューイー少将は沖縄にも勤務されたことがあると聞きましたが、沖縄に勤務することには大変な忍耐力が必要であったと思います。

もし、私なら周囲の無理解に公式の場でも日本を批判してしまうかもしれませんが、米軍の司令官たるものには、大変な忍耐力が要ると実感しました。しかし、そんな中でもヒューイー副司令には彼自身の気持ちをうかがわせるような部分があったように思えます。それは將軍側もこちら側に質問してきたことです。

ディスカッションはTVのインタビューと違うのは当然だが、日本でこの種の会合があると多くの場合は主催者が質問されたことに一方的に答える質疑応答のみとなるものですが、將軍がわからの質問に一瞬驚かされました。私は、ヒューイー副司令官には一般の日本人のホンネを、マスコミを経ずに直に知りたいという欲求があったのではないだろうかと感じました。

ところでどうしても気になったことは、台湾海峡で軍事衝突が起こったときの米国の対応について、軍人が自分で対中関係を決める訳ではないとはいえ、あまりにもスタンスが曖昧なことでした。それでも、私たちの質問に誠意をもって答えて下さったことに厚く感謝いたします。

宮田直明

副司令官自らが幕僚と共にブリーフィングして下さったことに先ず驚かされました。そこで、日米安保体制の内容と意義について説明がありましたが、自分が考えていた以上に、アメリカがわが国の安全について協力・支援する体制をとっていることがわかった。とくに災害時にも協力するつもりでいることは予想していなかった。

多くのキー・スタッフともに我々の質問に答えて下さったが、多くは副司令自らが答えて下さったことにまた驚かされた。我が国であれば、スタッフが応えるのが普通であるからだ。我々の質問の中には、本音で答えるとまずいもの、答えられないものなどもあり、そういった質問に対する回答は予想通りであったが、政府の意向に従い軍人としての立場をわきまえてのことであった。それでも、できる限り詳しく本音で答えておられた副司令官の熱意がひしひしと感じられた。我々のような学生に対し丁寧に応えて下さったことから、アメリカ側の日米安保体制を大切にしたいという思いを感じ取ることができた。

また、昼食のときも副司令官自らが我々と御一緒していただいて三度驚いた。この時、副司令官が「えひめ丸事件」について話しておられたが、私自身は、軍人に対してあまりにも重い業務上過失致死罪を科すことには限界があると思う。厳しい訓練を必要とするのであるから、過失に対してあまり重い刑罰を科すと、思い切った訓練を控える恐れがあり、有事にそれが災いしかねない。故意のない過失で軍人を裁くことの難しさを改めて感じた。「えひめ丸事件」は、日米の軍人に対する考え方の違いや、死生観の違いなど、互いの文化の違いや、価値観の違いが浮き彫りになった。この痛ましい事故を無駄にしないためにも、この際、日米の考え方の違いを両国民が共に噛みしめなければならないと思った。

副司令官が自ら対応して下さった米軍側の心からの歓待に対して厚く御礼申し上げます。



## 特別寄稿

## 帝京大学生の横田基地研修に寄せて

在日米軍司令官兼第5空軍司令官  
空軍中將 ポール E. ヘスター

J A A G A 創立5周年を迎え、私が誇りを持って言えるのは、貴組織はこれまで数多くの事を達成して来られたという事です。最近 J A A G A が成し遂げた事柄の一つは、日米安全保障同盟の重要性の認識を一般の人々に広める為、イニシアティブを取り、私のスタッフと共に調整をしながら行動を起こした事です。その活動の一つが、我々がアウトリーチと呼ぶプログラムの一貫で、普段は軍人と会う機会のない一般の日本の方々と米軍が、安全保障問題を語り合う機会を作り出した事です。J A A G A は東京にある何校かの大学にコンタクトをとり、横田空軍基地内にある在日米軍司令部へ招待し、米軍の任務について知っていただく為、施設の見学を行っています。

J A A G A がスポンサーとなった最初の見学は、大成功に終わりました。この見学では帝京大学法学部の学生達と会うことが出来ました。非常に優秀な学生達からの質問は、思慮深く、我々にとっては難しい質問でもありました。またブリーフィングそしてランチを共にして、学生達だけではなく我々も彼等から多くを学びました。後日、学生の一人が書いたエッセイの中にあつた下記のコメントを読んで頂ければ彼等の考えがお分かりになると思います。

「上級将校が時間を割き学生達の難しい質問にオープンに答えてくれた事に対して非常に驚き、また感動しました。日本の防衛の為のアメリカの支援が、

理解していたより遥かに大きい事をブリーフィングから学びました。そしてまた、質問にタブーは無いと言われたことに驚きました。たとえ私達から出された質問で米軍側が個人的な意見しか述べられないようなものに対してでも、彼等が答えようと努力してくれたことに驚いたのです。」

これらのコメントは、顔を合わせた対話が、安全保障問題を語るには最良の方法であるという、私の個人的信念を反映しています。民間人は軍人に対し型にはまった考えを持っており、軍人も民間人同様の夢やゴールを持つ同じ人間であり、ただそのゴールを達成する為に軍職を選んだだけなのだとこのことがわかると、そういった考えはすぐに打ち破られるわけです。

ここで J A A G A、そして特に岡本元空将には、我々を教育の場で貴重な時期にある若い世代の人々に引き合わせる機会を作って下さった事に対し、お礼を申し上げたいと思います。皆様の支援のもとで、学生達が米軍人と接触する事により、重要な安全保障同盟へのポジティブな見解を持つ事が出来るよう、心から期待しています。将来、他の大学とも、より多くの交流が出来る事を楽しみにしています。現在の学生は将来のリーダーなのです。彼等がリーダーシップをとるべく、知識を得る手助けをさせていただきたいと、心から願っています。

## 講演等の要望を募ります

## 「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A 事務局



# 日米幹部の相互派遣

## 相互派遣の現況

航空自衛隊と米空軍は相互の能力向上と日米相互の友好と絆を強化するため相互に幹部を派遣しており、この事業によって、日米双方の幹部が実務を通じて相手国の部隊事情を学ぶとともに、隊員との間に緊密な人間関係を構築する等多大の成果を収めてきている。

この事業は、日米防衛協力的一端を担うことにも寄与できることから、事業の発展充実が望まれており、J A A G Aも本事業発展の一助になればとの思いから、「だより5号」においてこの事業の概要を紹介するとともに、本国を離れ、空自の部隊等で活躍中の米空軍幹部から寄せられた所見等を逐次紙面に連載し、広く皆様に紹介致しました。

その後、要員の交代等が行われ、また、航空医学部門が終了、代わって航空輸送部門が新たに加わりましたので現況を紹介致します。J A A G Aは引き続き本事業を応援して参ります。会員諸兄の力強い応援メッセージ等をお寄せ下さい。細部連絡先等のお問い合わせはJ A A G A事務局まで。

### <米空軍教官等の受け入れ>

| 部 門  | 受 入 部 隊     | 期 間         | 階 級 ・ 氏 名                |
|------|-------------|-------------|--------------------------|
| 教育   | 幹部学校／目黒     | 13.01～15.01 | 中佐・James. V. Alderman    |
| 飛行   | 飛行教育航空隊／新田原 | 未 定         | 未 定                      |
| 研究開発 | 飛行開発実験団／岐阜  | 11.09～13.09 | 大尉・Christopher. T. Owens |
| 整備   | 第1術科学校／浜松   | 12.10～14.10 | 大尉・David S. Robertson    |
| 通信電子 | 第4術科学校／熊谷   | 11.09～13.09 | 大尉・Fred H. Taylor        |
| 要撃管制 | 第5術科学校／小牧   | 未 定         | 未 定                      |
| 航空輸送 | 第1輸送航空隊／小牧  | 12.11～14.11 | 大尉・Dylan M. Monaghan     |

### <航空自衛官の派遣>

| 部 門  | 派 遣 先 部 隊              | 期 間         | 階 級 ・ 氏 名 |
|------|------------------------|-------------|-----------|
| 教育   | 米空軍士官学校／コロラドスプリングス     | 12.01～14.07 | 3佐 尾崎義典   |
| 飛行   | 第56戦闘航空団／ルーク AFB       | 11.05～14.01 | 1尉 稲月秀正   |
| 研究開発 | マテリアルコマンド／ライトパターソン AFB | 12.03～14.03 | 1尉 上野康弘   |
| 整備   | 第82教育団／シェパード AFB       | 12.03～14.03 | 1尉 脇田健一   |
| 通信電子 | 太平洋空軍司令部／ヒッカム AFB      | 12.07～14.07 | 3佐 島津貴治   |
| 要撃管制 | 第325教育隊／ティンドル AFB      | 12.12～15.03 | 1尉 石井浩之   |
| 航空輸送 | 第463輸送航空隊／リトルロック AFB   | 12.10～14.10 | 3佐 福士義孝   |

## 在空自米空軍幹部への支援

また、J A A G Aは本事業応援の一環として、1999年からこの事業で航空自衛隊の部隊等において教育等に励まれている在空自米軍幹部に対して業務遂行上の一助となる所望の物品を貸与し、その活動を支援している。



支援の状況は、逐次「だより」の紙面でお知らせしていますが、昨年の秋以降に幹部学校、第1術科学校、及び第1輸送航空隊の米空軍幹部が交代となり、着任された3名にそれぞれ新たに物品の貸与を実施致しました。

新着任の方々から物品貸与に対する礼状をお寄せ頂きましたので紹介いたします。

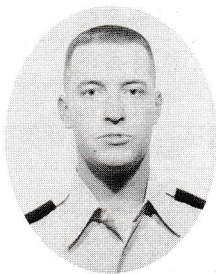
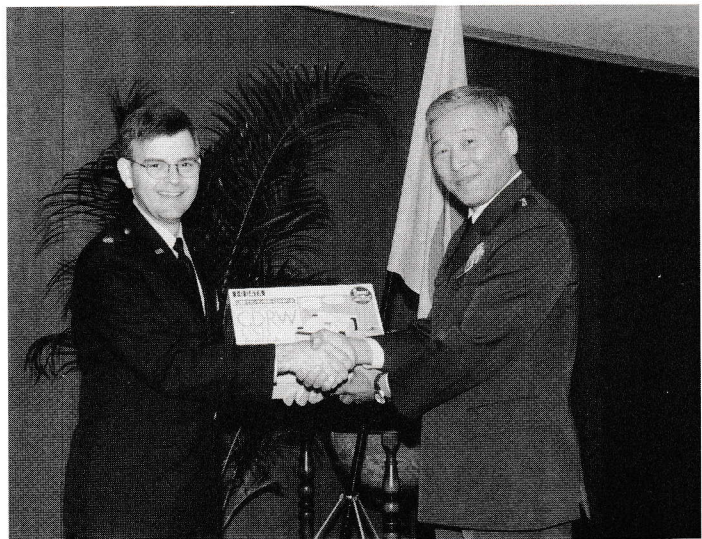
Members of JAAGA

Thank you for your continued outstanding support to the mission of the USAF Exchange Officer position at the JASDF Air Staff College. The high-quality CD read/write device you have given provides a powerful technology to offer Air Staff College students effective classroom presentations. It also provides The capability to easily copy and provide these presentations to students on an easy-to-use compact disc. Your gift is a valuable tool! I believe it will serve as a great help to enhance each Air Staff College Student's understanding of the many aspects of our important Japan/US bilateral relationship.

Thanks again.

Respectfully,

Lt Col James V. "Vince" Alderman  
USAF Exchange Officer  
JASDF Air Staff College, Meguro



First, I want to extend my thanks to JAAGA for the new software. It will certainly simplify my class preparation and editing.

JAAGA and the exchange officer program are alike in that both are designed to increase the trust and understanding between Japan and the US. It is through The contacts we make and the friend-ships we build that we meet our common objective. The alliance between the US and Japan is extremely important to regional stability.

Please keep up the good work and I wish you success in all your endeavors.

まず、このたび新しいソフトウェアをいただき、御礼を申し上げたいと思います。お蔭様で教務準備などが大変やりやすくなりそうです。



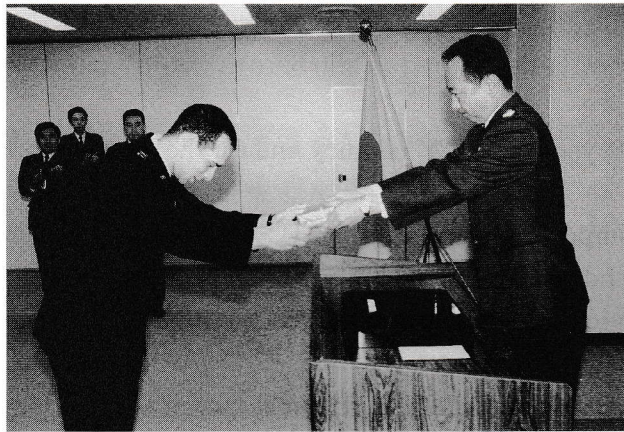
J A A G A と交換幹部プログラムは共に日本とアメリカ合衆国の相互理解と信頼の醸成のためにあるという点で、共通しているといつてよいでしょう。私達が交流し、友好関係を築き上げていくことで、そうした共通の目的を達成することが出来るのではないのでしょうか。

日本とアメリカ合衆国の協力関係は非常に重要です。どうか今後も素晴らしいご活動を続けていただけますよう、私も皆様のご清栄を祈念しております。

平成 13 年 4 月 6 日



David S. Robertson



こんにちは！ 私は在日米空軍、ディラン M. モナハン大尉、C-130 型機の教官パイロットです。現在私は愛知県にある航空自衛隊小牧基地で勤務しています。自衛隊で 7 人目の交換幹部、輸送機の操縦士として日本に來ました。現在、C-130 教官課程を聴講しています。今年の夏には、日本人学生に対する操縦教育にも従事します。今回皆様のご協力によりこの機会が得られたことを感謝しています。特に日米エアフォース友好協会による交換幹部への様々なご支援は本当に感謝

しています。今後も、皆様のご支援、ご期待に応えられるように一生懸命がんばっていきたく思います。

私は 2000 年 11 月 23 日、長男、妻と一緒に小牧に到着しました。その後、2001 年 2 月に長女が生まれ、現在家族 4 人で小牧市の桃花台というところに楽しく暮らしています。小牧に來てから、いろいろな方々から東海地方にある文化的、歴史的に重要な興味深い場所を教えてくださいました。この交換幹部として勤務する 2 年の間に、周辺のいろいろな所に行き、教えていただいたところをできるだけ見てみたいと考えています。そして、貸与されましたデジタルカメラが、これらの素晴らしい思い出をたくさん残してくれると思います。もちろん、このデジタルカメラはブリーフィング等の仕事の上でも大活躍してくれると思います。

最後に、この交換幹部として小牧に來ることができたことは、私ばかりでなく家族にとつても素晴らしい機会になると思います。そして、航空自衛隊と一緒に任務を果たすことができ本当にいい機会を得られたことを喜んでいきます。

これからもよろしくお願ひします。

米空軍大尉 ディラン M. モナハン



## JANAF A 10 周年記念

4月26日グランドヒル市ヶ谷において、日米ネービー友好協会の創立10周年を記念する講演会とレセプションが開催され、JAAGAからは石塚会長が出席した。

記念講演は、米国バンダービルト大学教授のジム・アワー氏によって「20世紀と21世紀における日米のネービーパートナーシップ」と題して行われ、海上自衛隊と米国海軍の緊密な交流を振り返りながら現在及び将来の戦略的意義とその重要性を強調し、多くの聴衆を魅了するものであった。

記念レセプションの冒頭でJANAF Aの岡部会長は、協会発足の経緯と10年の歩みを回顧し、これまで日米海軍の相互信頼関係の維持・向上に寄与してきたJANAF Aの役割は今後一層重要であるとして、10周年を機にさらに活発な活動を目指す、その決意を披露し協力を要請した。

石塚会長は、次の言葉を贈って乾杯の音頭をとった。

On behalf of JAAGA, a junior partner of JANAF A, I am honored to join here at the 10<sup>th</sup> anniversary celebration of JANAF A.

As you know, this year is very special for the first year of the 21<sup>st</sup> century and for the 50<sup>th</sup> anniversary of the Japan-U.S. security arrangement.

In the foreseeable 21<sup>st</sup> century, it is believed that importance of the Japan-U.S. security arrangement must increase for prosperity of both nations and peace and stability of the region. And on the other hand, difficulties to be overcome in order to maintain and reinforce the alliance in a peace time must increase.

That is to say no wonder, expectation of both countries for JANAF A must increase.

So that, in celebration of the 10<sup>th</sup> anniversary of JANAF A, I like to propose my toast to JANAF A in the 21<sup>st</sup> century. KANPAI.



Commemorative Reception of the 10<sup>th</sup> Anniversary, JANAF A



# 平成12年度日米共同訓練実施状況

## 昨年度に続きグアム島で日米共同訓練を実施

### J A A G Aも訓練参加者を激励・慰問

平成12年度の日米共同訓練の実施状況は、航空幕僚監部の発表によると計5回実施した。このうち、昨年度と同様F-15戦闘機10機、E-2C早期警戒機2機を米グアム島アンダーソン空軍基地に展開させ、実戦的な環境下での日米共同訓練を実施した。

なお、J A A G Aは、友好親善事業の一環として訓練参加隊員を激励・慰問した。

12年度日米共同訓練の概要等は次のとおり。

#### 1 全般

5回の日米共同訓練の内訳は、実動訓練4回、指揮所演習1回である。実動訓練では防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練、救難訓練、再発進準備訓練を実施した。またこの他に小規模日米共同訓練を17回実施した。

また、11年度に引き続き、米国グアム島アンダーソン空軍基地にF-15戦闘機10機、E-2C早期警戒機2機を展開させ日米共同訓練を実施した。

#### 2 成果

日米共同訓練は、日米部隊相互間の連携要領の演練及び戦技能力の向上を図ることを目的として実施しているが本年度も以下のとおり着実な成果を得た。またこれらの訓練を通じて日米部隊間の信頼感の醸成及び一層の友好の促進にも多大な成果を得た。

(1) 実動訓練では、実地に演練し日米部隊相互間の戦技技量の向上および日米共同対処能力の向

上を図ることができた。特に、グアムにおける日米共同訓練では、グアム周辺の広い訓練空域を活用し、わが国では実施困難な実戦的環境下で、防空戦闘訓練及び戦闘機戦闘訓練を実施しそれぞれの能力の向上を図ることができた。

(2) 日米指揮所演習では、横田基地において米空軍の指揮所演習シミュレーションシステムを使用して実施し、わが国防衛実施時の指揮所活動における共同運用能力の向上を図ることができた。

#### 3 訓練概要

##### (1) 訓練別実施概要

防空戦闘訓練：3回、戦闘機戦闘訓練：2回、救難訓練：1回、再発進準備訓練：2回

##### (2) 項目別実施回数

###### ア 基地別実施回数（空自基地使用）

千歳：1回、三沢：1回、築城：1回、新田原：1回、春日：1回、那覇：1回、襟裳：1回、福江島：1回

###### イ 機種別実施回数

F-15：3回、F-4：2回、F-1：2回、E-2C：3回、E-767：1回、U125A：1回、UH-60：1回、V-107：1回、CH47J：1回

###### ウ その他

小規模日米共同訓練は、北部航空方面隊地域において5回、西部航空方面隊地域において11回、南西航空混成団地域において1回実施し、主として操縦者の戦技能力の向上を図った。



## 沖縄で日米下士官交流会

3月9日、米軍嘉手納基地のNCOクラブにおいて「日米下士官交流会」が開催され、日米双方から約900人が参加した。

日米下士官の相互交流は、1996年の千歳及び三沢基地における部隊相互研修に始まり、米軍側の受入基地が、昨年横田、嘉手納基地へと拡大されている。

今般の交流会は、嘉手納における夜の部として日米共同で計画・実施されたものであり、ゲストスピーカーとして在日米空軍司令官ヘスター中将が、また来賓として在沖縄日米空軍指揮官とJAAGAの会長及び沖縄支部長が招かれた。

JAAGAは、毎年実施される日米下士官相互交流を、日米共同作戦の実効性を高めるものとして重視し、これへの支援を続けて来た。

本交流会の冒頭で挨拶に立った航空自衛隊連合准曹会会長の杉山弘准尉（空幕）は、JAAGAに対して次のように謝意を表した。

「Ret Gen Ishizuka and Members of the Japan - America Air Force Goodwill Association, thank you for honoring us with your attendance and the tremendous support you give to enhancing our great nation's bilateral relations, and especially for your contributions to our NCO exchange program.」

なお日米下士官交流は、日米共同訓練及び部隊相互研修と共に教育の場が活用されている。これまで航空自衛隊の士長及び若手の空曹が、三沢基地のエアマン・リーダーシップ・スクール及び嘉手納基地のNCOアカデミーで米軍兵士と共に教育を受け、また2002年度には、1曹、曹長が、米本土アラバマ州にあるシニアNCOアカデミーへと留学する計画が進んでいる。



Reception, JASDF and USAF NCO Exchange Program

### ☆ 原稿募集 ☆

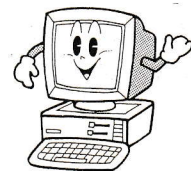
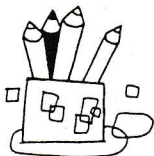
皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

#### 皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております  
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています

#### 投稿受付

横幕 功 Tel 03-3286-0335 (新東亜交易)  
Fax 03-3213-2405





## 「私に勝利を、もし勝てなくとも、私に挑戦への勇気を」

### 嘉手納基地でスペシャルオリンピック

— JAAGAも助成金を贈呈し大会を支援 —

去る6月16日、嘉手納基地において「第2回嘉手納スペシャルオリンピック」が開催され、養護学校や特殊学級の児童、生徒約400人が知的・身体的障害を乗り越えてスポーツを楽しんだ。大会は、参加競技者による入場行進をもって開始され、基地内の体育施設とスタジアムに設定された各種ゲームや競技に熱戦が展開された他、ランチタイムには日米隊員の心のこもった手作りハンバーガーに舌鼓するなど、終始歓声と熱気に包まれた有意義な1日となった。ボランティアの人々との心の通った暖かいふれあいと、不自由さを乗り越えて明るく頑張る競技者の輝いた目が印象的であった。

「スペシャルオリンピック」とは、米国で1968年に、Shriver 婦人によって創設された知的障害を持つ児童・成人を対象としたスポーツ・ボランティア活動である。その活動は、米国で年々盛んになり、軍人も多く参加している。また、現在では150ヶ国にも及び国々もこれに呼応して、全世界で100万人以上にも達する知的障害者を対象に、「私に勝利を、もし勝てなくとも、私に挑戦への勇気を」(“Let me win, but if I cannot win, let me be brave in the attempt.”)を合言葉にして、本活動が広く実施されている。



Special Olympic at Kadena AFB

在日米軍基地でも、軍人のボランティアが中心になって、毎年三沢、横田、嘉手納で、週末の1日を費やして、基地周辺地域及び米軍家族の中の対象者に呼びかけて、大会が開催されており、基地と地域社会の架け橋として、その重要性が認識され年々充実化が図られている。航空自衛隊那覇基地からも今大会に南混団指令を始め、11人がボランティアとして参加した。

また、JAAGAもこの大会の趣旨に賛同、大会の成功を願って助成金を贈呈し支援したが、先日、米空軍嘉手納基地のスペシャルオリンピック委員会の委員長カントレル大佐からJAAGA会長のもとに感謝状と記念の盾が送られてきた。



Appreciation Award presented by Kadena Special Olympic Committee



## … 新入会員の紹介 …

### 1 新入会員の紹介

#### (1) 正会員

(五十音順敬称略)

| 氏名    | 〒        | 住所                     | 勤務先                |
|-------|----------|------------------------|--------------------|
| 大串 康夫 | 188-0011 | 西東京市田無町1-11-7          | 石川島播磨重工業(株)        |
| 岡本 智博 | 134-0087 | 江戸川区清新町1-4-2-303       | 日本電気(株)            |
| 越智 通隆 | 263-0044 | 千葉市稲毛区小中台町3488-1-4-604 |                    |
| 藤田 尚  | 183-0026 | 府中市南町3-18-31           | カヤバ工業(株)           |
| 水野 進  | 350-1327 | 狭山市笹井1289-14           | デジタルウェザープラットフォームKK |
| 森 和彦  | 277-0941 | 千葉県東葛飾郡沼南町高柳1561-72    | 三菱電機(株)            |

#### (2) 個人賛助会員

| 氏名    | 〒        | 住所              | 勤務先              |
|-------|----------|-----------------|------------------|
| 瓜生 正則 | 175-0045 | 板橋区西台3-10-12    | (株)共立建興 常務取締役    |
| 江間 清二 | 154-0014 | 世田谷区新町3-2-3-301 | 第一勧業銀行(株) 顧問     |
| 湖東 安行 | 352-0014 | 新座市野寺2-9-18     | (株)ソフィックス 代表取締役  |
| 渋谷 勇二 | 939-8084 | 富山市西中野町1-9-20   | シブヤ建設工業(株) 代表取締役 |
| 新村 恭英 | 431-1209 | 浜松市観山寺町2738-2   | (有)清音(こだま) 代表取締役 |
| 吉田 郁子 | 433-8123 | 浜松市幸2丁目46-37    | (株)中部総業 専務       |

#### (3) 法人賛助会員

| 会社名            | 〒        | 住所               | 代表者             |
|----------------|----------|------------------|-----------------|
| 旭化成(株)         | 130-6591 | 墨田区錦糸3-2-1       | 火薬システム営業部長 藤沢俊彦 |
| (株)日本エアシステム    | 144-0041 | 大田区羽田空港3-3-2     | 企画管理部長 長束隆由     |
| フィルムソリューション(株) | 262-0033 | 千葉市花見川区幕張本郷2-8-9 | 代表取締役 太田茂       |

### 2 名簿修正等

下記の方は記載事項の変更が有り、新名簿に修正の上、記載致しました。

#### (1) 正会員

- ・尾坪祐三、工藤公光、熊手孝夫、菅原淳、庄克彦、津金澤洋實、横江勝利

#### (2) 個人賛助会員

- ・C.K アカナ

#### (3) 法人賛助会員

- ・関東航空計器(株)、新明和工業(株)、日本電気(株)、富士重工業(株)、横河電機(株)

## 会 員 募 集

J A A G Aは創立5周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、個人会員につきましては次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

#### 【入会資格】

正会員：航空自衛隊OB

個人賛助会員：航空自衛隊OB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

#### 【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-5323-5555 村木裕世(横河電機(株))

「電話」 03-5323-5135 同上

03-3219-5638 細 稔(株)島津製作所

042-333-1229 壺岐 紘記(日本電気(株))

03-3489-1120 尾崎 利夫(東京航空計器(株))

( )内は勤務先